

畜産みやぎ

発行所

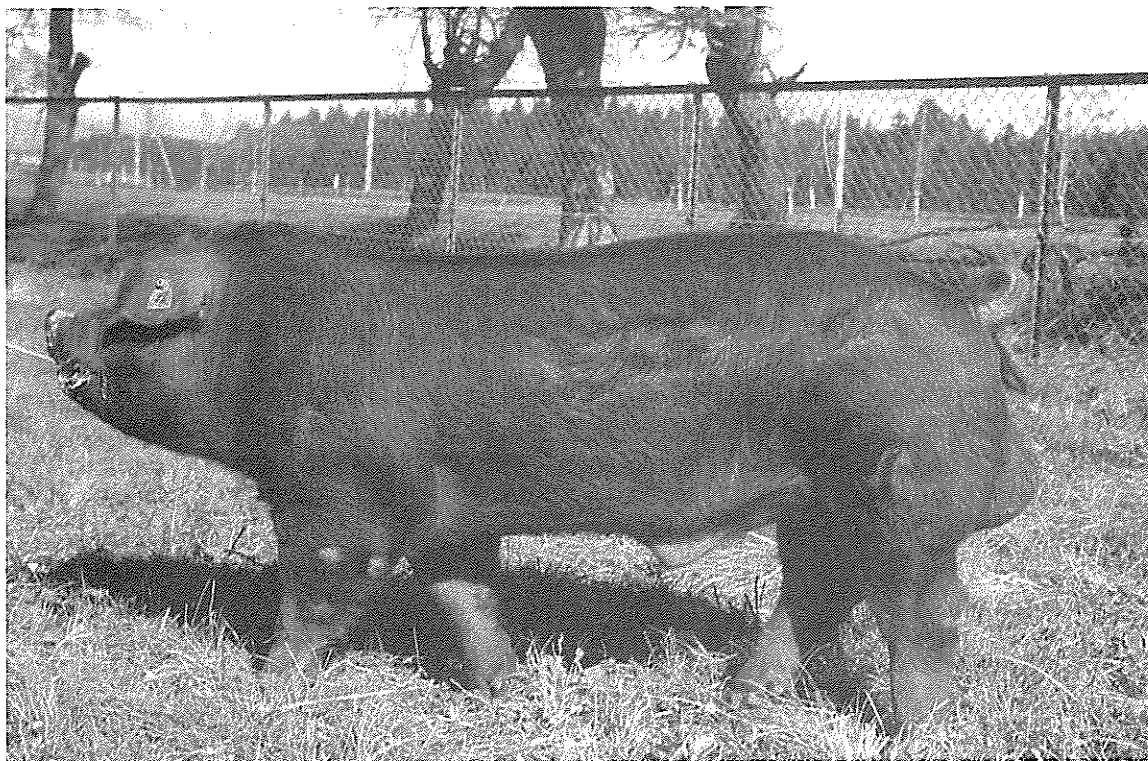
仙台市青葉区上杉一丁目16番3号J Aビル別館3F
法人 宮城県畜産協会
電話 022-723-0733

編集発行人

大堀 哲

印刷所

榊東北プリント



(新系統豚「しもふりレッド」)

もくじ

C O N T E N T S

平成14年度畜産課施策の概要と 主要事務事業の紹介について …… 2	豊里町有機肥料センターの紹介について …… 7
BSE対策について …… 4	ニューカッスル病の発生について …… 8
新系統豚「しもふりレッド」の紹介について …… 5	全国農業犬学校プロジェクト発表会に参加して …… 8
第19回和牛産肉能力間接検定成績について …… 6	人の動きについて …… 9
	経営診断希望農家の申込み受付中! …… 11

みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>
Eメール mygchiku@mwnet.or.jp

平成14年度畜産課施策の概要と主要事務事業の紹介

宮城県畜産課

本県の畜産は、食生活の多様化等を背景とした畜産物需要に支えられ、農業粗生産額の3割を占めるまでに成長し畜産主産県としての位置を確立している。

また、畜産物の生産活動を通じた環境の保全という本来的な役割に加え、体験や交流を通じた豊かな人間性の育成といった役割も担いながら、農業の基幹部門として重要な役割を果たしている。

しかしながら近年の畜産を取り巻く情勢は非常に厳しい状況にある。国内での口蹄疫や牛海綿状脳症(BSE)の発生により、安全で安心な畜産物に対する国民のニーズが一層高まる中で、消費者に信頼される畜産物の生産体制を確立することが急務である。また、従事者の高齢化や担い手不足による生産基盤の弱体化、国際化の進展による低コスト化への対応、環境への負荷軽減や家畜衛生対策の強化も求められている。

このため、県では、平成12年7月に農業・農村振興の目標を掲げた「みやぎ食と農の県民条例」を制定、平成13年10月には条例に定めた目標を達成するための基本的な道筋を示した基本計画を策定したところである。

畜産においては、平成12年度に策定した「宮城県酪農及び肉用牛生産近代化計画」等の基本計画の目標を実現するための具体的な施策に取り組んでいく。具体的には、我が国初の牛海綿状脳症(BSE)の発生により影響を受けた畜産農家に対する支援対策を継続するとともに、家畜の検査防疫体制の充実・強化を図り、安全で安心な畜産物の供給体制を確立する。「家畜排せつ物の利用を促進するための宮城県計画」を着実に実施するため、個々の実態に応じた家畜排せつ物処理施設の整備を進め、快適な生産環境を整備する。また、肉質と肉量を兼備した新たな肉用牛生産体制を確立するとともに、ゆとりある効率的な酪農経営を目指した牛群の改良やヘルパー制度の充実を図る。

さらに、自給飼料増産に積極的に取り組む生産集団を支援し、飼料自給率の向上を図る。また、発育性・産肉性に優れた本県独自の雄型種豚「しもふりレッド」の供給体制を確立し、養豚生産の基盤強化を図る。

なお、これら施策の展開に当たっては、「新世紀 足腰の強い 宮城の畜産」をスローガンに、次の六項目を重点施策に掲げ、国、市町村、畜産関係団体との連携を一層強化し、幅広い視点から総合的な施策を展開する。

- 1 畜産物の安心・安全性の確保と生産支援
- 2 快適な畜産を支える生産環境の整備
- 3 21世紀みやぎの肉用牛生産の振興
- 4 先進的な養豚経営の振興
- 5 ゆとりある生産性の高い酪農経営の振興
- 6 新たな畜産技術の開発と活用

ビフィズス菌は
ヨーグルト中の乳酸菌の働きは、どれも同じではありません。

洗きたまま腸までとどきます。

ビヒダス
ヨーグルト

ヨーグルト 500ml

宮酪乳業株式会社 名取市麻野坂五丁目1番3号
☎(022)384-5181

来客 接待に牛乳を!!

県産牛乳の需要拡大を図る為、各団体並びに生産者団体におかれましては、会議、来客等に、従来のお茶に変わり牛乳をご利用下さるようお願い申し上げます。



宮城県牛乳普及協会

仙台市青葉区緑町一丁目6番5号 ☎022(263)7688

ORION
ともに前進 技術のオリオン

酪農家の
声を反映した製品づくりと安心のおけるアフターサービスはオリオングループの誇りです。

東北オリオン株式会社

本社 〒984-0011 仙台市若林区鶴代町1番68 ☎(022)284-0691
宮城営業所 古川市所田字舟成島59-4 ☎395-226 T.E.L.(0229)24-4330

平成14年度畜産課予算一覧票表

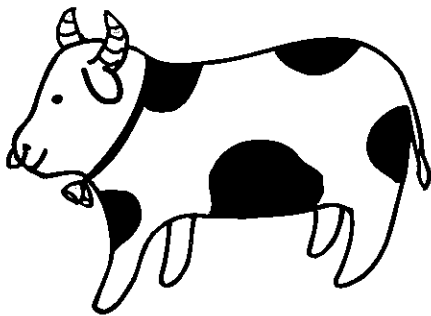
科目・事業名	本年度予算額(千円)
I 畜産総務費	686,524
II 畜産振興費	2,397,638
1 家畜改良増殖事業費	174,736
2 家畜改良対策事業費	4,978
3 家畜導入事業費	2,300
4 畜産高度生産技術実用化促進事業費	12,016
5 畜産流通対策事業費	77,800
6 地域畜産振興事業費	79,998
7 畜産環境総合整備事業費	417,565
8 みやぎの快適畜産総合対策事業費	179,118
9 畜産団体等育成強化事業費	472,082
10 公共育成牧場対策事業費	115,766
11 草地開発整備事業費	651,214
12 自給飼料生産対策事業費	16,017
13 流通飼料対策事業費	272
14 生乳流通改善対策事業費	2,741
15 酪農経営体質強化対策事業費	676
16 畜産振興総合対策推進事業費	724
17 養豚振興総合対策事業費	2,840
18 21世紀みやぎの牛づくり活性化事業費	186,795
III 家畜保健衛生費	101,441
1 家畜伝染病予防事業費	44,959
2 家畜保健衛生費	32,046
3 家畜衛生事業費	24,436
合計	3,185,603

以下、平成14年度の主要事務事業を紹介します。

- 1. 個体情報管理システム実用化事業 (新規)**
 牛海綿状脳症 (BSE) の発生により、牛の移動履歴等を管理するため、全ての牛に個体識別番号を付け生産から流通に至る各段階での牛の身元を識別、確認できるシステムを確立する。
 - 事業主体 宮城県
 - 事業年度 平成14年度
 - 14年度予算額 1,000千円
 - 事業内容
 - ① 個体情報管理システム実用化の円滑な推進を図るため、推進会議を開催し県内の実施体制や事業推進上の課題を整理・検討し農家指導を行う。
 - ② 農家向けパンフレットを作成し、個体情報の確実な把握や飼料給与の適正化等の啓蒙を行う。
- 2. 肉用牛肥育経営安定緊急対策事業 (継続)**
 牛海綿状脳症 (BSE) の影響による生産者の所得減少に伴い、肉用牛肥育経営安定対策事業において生産者積立金の延納等の発生の可能性があるため、生産者積立金の一部を助成する。
 - 事業主体 社団法人宮城県畜産協会
 - 事業年度 平成13年度～平成14年度
 - 14年度予算額 33,800千円
 - 事業内容

事業期間内に生産者積立金の納入月齢が到達する牛の生産者積立金の5% (生産者負担の約20%) を助成する。
- 3. 家畜排せつ物処理施設機能強化事業 (継続)**
 既存の家畜排せつ物処理施設を改良し、家畜排せつ物法の管理基準に適合した処理施設への再活用を図り、既存施設の有効利用と稼働率の向上により同法に係る宮城県計画の達成を促進する。
 - 事業主体 農業協同組合、営農集団等
 - 事業年度 平成13年度～平成16年度
 - 14年度予算額 24,100千円
 - 事業内容
 - ① 適当な屋根覆い等がないため家畜排せつ物法の不適合施設となった堆肥盤等を適合施設にするための改良整備を行う。
 - ② 堆肥センターに搬入される家畜排せつ物の水分を適正に保ち、稼働率の向上を図るための機器の導入を行う。

(畜産振興班 中條 満)



動物用医薬品 犬・猫用ノニ錠剤
フロントライン®スプレー

新発売

動物用医薬品
 ビタミンE・セレン配合ミネラル製剤
銹塩E100

日本ゼンヤク工業(株)
 東北事業所
 〒981-3361 宮城県黒川郡高谷町あひの平2丁目31-5
 TEL 022-348-6191 FAX 022-348-6194

肉牛出荷、素牛移動ストレス対策の栄養管理に!!

ルビックス
 牛用混合飼料

S

ミネラル、ビタミン、ミネラル配合飼料

農協 畜産 経済連

正統の育ちと味

仙臺牛

仙台牛銘柄推進協議会
 仙台市青葉区上杉1-2-16 全農みやぎ畜産課内 TEL 022(264)8450

畜産経営支援資金を創設しました

宮城県経営金融課

平成13年9月10日、国内で飼われていた牛に、BSE（牛海綿状脳症）の患畜が確認されて以来、国産牛肉の消費減退や価格下落等により、酪農家や肉用牛飼養農家など畜産農家の経営に大きな打撃を与えております。

現在、食肉となる牛は全てBSEの検査を実施し、また、全ての牛に固体識別番号を付した耳標を装着して情報を管理するなど、国産牛肉の安全確保に最大限の努力が払われており、今後、一刻も早く消費者の信頼を回復し、畜産農家に対する経済的な影響が払拭されることが望まれております。

このような畜産農家の経済的な影響を考慮し、平成14年度、県は、市町村・融資機関と協力して、低利の資金を提供する畜産経営支援資金を創設しましたので、ご活用下さい。

資金の主な内容は、以下のとおりです。

1. 貸付対象者

市町村長により、BSEの患畜が確認されて以降の畜産物の月平均販売額がそれ以前の月平均販売額より2割以上減少したことを認定された方で、農業経営及び生活維持が困難となった酪農家や肉用牛飼養農家の方が対象となります。

2. 資金の使途

畜産経営支援資金は飼料費や肥育もと畜の購入費など畜産経営の維持に必要な運転資金のほか、通常の制度資金では貸付対象とならない生活資金としても借りることが可能な資金です。

3. 貸付限度額

貸付の限度額は、次の①②を比べ、どちらか低い額となります。

①個人の場合150万円（但し、農業経営の実質担当者の方の農業所得が総所得の過半を超えている方は300万円）、団体の場合は500万円まで。

②BSEの患畜が確認されて以降減少した畜産物の年間販売相当（見込）額。

（例）「宮城一郎」さんは農業所得500万円、農外所得200万円で、例年の畜産物年間販売額が800万円、平成13年9月10日以降の畜産物年間販売（見込）額が600万円の場合。

「宮城一郎」さんの貸付限度額を①の条件でみると300万円まで、②の条件で見ると200万円までとなることから、貸付限度額は低い方の200万円までとなります。

4. 償還（据置）期間

償還は5年以内で、内据置は1年以内です。但し、個人の方で150万円を超える金額を借りる方は7年以内の償還で、内据置は1年以内です。

5. 融資機関

県内に本店又は支店のある農業協同組合・銀行・信用金庫・信用組合等の融資機関（但し、融資機関によっては取扱っていない場合がありますので、ご確認下さい。）

6. 貸付利率

0.9%以内（融資機関にお尋ね下さい。）

7. 貸付期間

平成15年3月31日まで（但し、あらかじめ畜産物の販売減少額の認定を市町村長から受けた上で、融資機関へ3月7日まで、借入申込みして下さい。）

8. 償還方法


資金の償還方法は元金均等償還で、約定償還日は毎年12月20日です。

9. 問い合わせ

資金の詳細な内容等は、農協等融資機関、市町村の農業担当課、県関係機関のほか、県経営金融課農林水産金融班（022-211-2744）にお問い合わせ下さい。

（農林水産金融班 三坂達也）

特産・畜産



市場
KODAWARI
ICHIBA

各県の畜産会が選び出した全国約2000件の畜産物生産情報を、一堂に集めました。
 今まで知らなかった珍しい畜産品や、こだわり畜産品の数々。
 産直品で食卓にひと花添えたい人から、産直品を作りたい人まで、
 とっても役に立つ情報が、インターネットでご利用になれます。

宮城県畜産会ホームページからのアクセスをお勧めします。

<http://cali.lin.go.jp/japan/k04/>

.....日本全国いいもの産直便.....

新系統豚「しもふりレッド」の紹介

宮城県畜産課

1. はじめに

宮城県では、平成元年度より発育が良く、飼料の利用性が高く、赤肉蓄積量が多いのが特徴である系統豚「ミヤギノ」の利用・普及に努めてきました。現在では、銘柄豚「ミヤギノポーク」の素豚として活躍しています。

また、一方、種豚生産農家の減少や、肉豚生産の最終交配雄として利用されてきた「サクラ201」は、平成6年度で維持が打ち切れ、全国的に種雄豚が不足する状況となりました。

このような状況の中で、宮城県では、平成6年度から畜産試験場において、本県独自に、肉が軟らかく肉の中に適度に脂肪が入った美味しい肉質を持ったデュロック種豚の改良を目指してきました。平成14年2月に完成し、3月には系統豚「しもふりレッド」として認定申請しました。本年7月には、第1回目の種豚の配布をする予定となっています。本稿では、第7世代の選抜の状況と今後の普及予定について紹介します。

2. しもふりレッドの選抜状況

しもふりレッド種豚は、1日に増える平均の体重量（1日平均増体量）、ロースの太さ（断面積）、肉の中に入る脂肪の量（筋肉内脂肪含量）および背中の脂肪の厚さ（背脂肪厚）の4つの形質を直接の選抜形質とし、肉の軟らかさも改良目標として選抜を進めてきました。第7世代の能力の調査が終了し、図には1日平均増体量、ロースの断面積、筋肉内脂肪および背脂肪厚の育種価の変化を示しました。1日平均増体量は約120g増え、ロース断面積も約2cm²太くなりました。また、筋肉内脂肪は3世代以降順調に増え、第7世代では基礎世代より約1.2%増えました。その結果、写真に示すようなサシ（霜降り）が調査豚81頭の約9割にきれいに入ってきています。さらに、肉の軟らかさを示すTenderness（テンダーネス）も、第4世代以降値が低くなってきており、肉が軟らかくなってきました。また、肉質の調査結果、脂肪にオリーブ油の主成分・オレイン酸が増えたことで「とろけるような舌ざわり」となりました。これらのことは、平成13年の8月に県内の食肉卸、小売り業者を対象とした試食会や、7月から9月に試験的に畜産試験場生産の豚肉を仙台駅エスパル内で販売し食味性を調査した結果、多くの方が肉質が軟らかく非常に食べやすい肉だと評価していることから伺い知ることができます。

3. しもふりレッドの今後の利用推進について

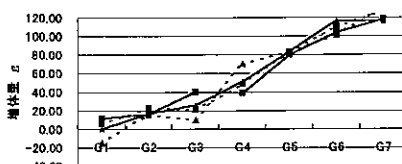
しもふりレッドの利用方法の一つは県内で銘柄豚として流通しているミヤギノポークの交配用の種雄豚としての利用です。しもふりレッドを利用することで宮城県独自で造った系統のミヤギノポークに占める血液割合が75%となり、宮城県独自の銘柄化を進めることができます。リニューアルしたミヤギノポーク肉豚は平成15年の8月から市場で流通する予定です。二つ目の利用方法としてはしもふりレッド種豚を利用した新しい銘柄豚の作出・普及です。しかし、デュロック種は残念ながら生まれる子豚の数が少ないという欠点があります。今後は、その欠点を補う組み合わせや、生産コストを価格面で考慮した純粋デュロック肉豚の利用も考えられます。美味しい豚肉が1日も早く県内消費者の食卓にのることを念願しています。

4. しもふりレッドが県内養豚振興に及ぼす効果

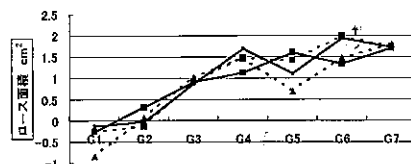
しもふりレッドは、発育が良くロース断面積が太いことから、肉豚の発育の良さ肉質の均等性等により、効率的な豚肉生産（生産性の向上）が図られます。すなわち、肥育期間の短縮や、上物率向上による養豚農家の所得向上が期待されます。また、種雌豚も種雄豚も本県で造られた系統豚を利用することで、本県独自の特徴（発育の良さ、サシが多く、肉が軟らかいなど）を備えた豚肉生産ができ、ミヤギノポークの銘柄のさらなる強化や新しい銘柄豚の作出等が期待できます。さらに、本県で種雌豚、種雄豚の両方を維持・増殖できる体制が整備されることから、優良な種豚の供給により、養豚経営の安定的な展開が期待されます。

以上のように、しもふりレッドは、産地間競争の激化や国際競争に打ち勝っていくための、本県養豚の起爆剤となるに違いないと確信しております。今後、生産者の皆様には、安定的な養豚経営と消費者の皆様には安全で安心かつ美味しい豚肉を提供出来るものと思っております。

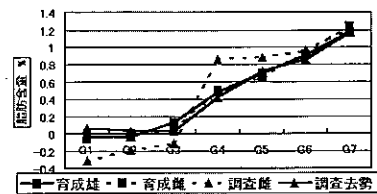
(家畜改良衛生班)



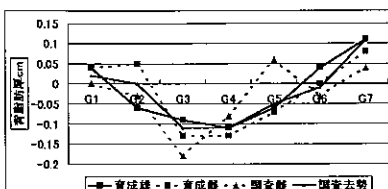
一日平均増体量の育種価の変化



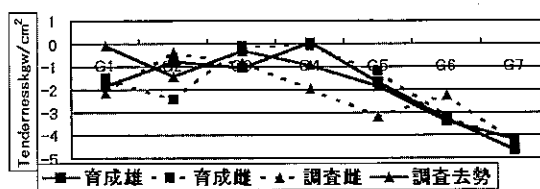
ロース断面積育種価の変化



筋肉内脂肪育種価の変化



背脂肪厚育種価の変化



肉の軟らかさの育種価の変化



第7世代の調査豚の肉

<畜試便り>

第19回和牛産肉能力間接検定成績

宮城県畜産試験場

第19回和牛産肉能力間接検定が終了したのでその概要について報告します。

今回検定した候補牛は、奥北茂、宮奥花、宮富藤、糸昭の4頭で、検定期間は奥北茂、宮奥花は平成12年11月21日～平成13年11月20日、宮富藤、糸昭が平成13年1月30日～平成14年1月29日に実施しました。直接および間接検定成績は表-1と2に示しました。

<奥北茂>

父は奥茂(宮城県加美郡)、母の父は糸光(島根)、母の母の父は第7系桜(島根)で生産地は米山町(須藤清さん生産)です。

間接検定の成績では一日平均増体量(DG)0.88kgは県平均(第7回～18回間検)を上回りましたが、全国平均(平成11年度間接検定成績)にはおよびませんでした。枝肉重量は323kg、ロース芯断面積(EM)は44cm²と全国、県平均を下回りました。脂肪交雑基準値(BMS)は3.3で全国、県平均2.6と比較して極めて高い値を示し、肉質の良さが特徴的です。

<宮奥花>

父は奥茂(宮城県加美郡)、母の父は糸花(島根)、母の母の父は第7系桜(島根)で生産地は迫町(佐々木芳昭さん生産)です。

間接検定の成績ではDGが0.94kgと良好でしたが、検定期間の増体の割合には枝肉重量は332kgと大きくはありませんでした。BMSも3.2と良好でしたが、筋間脂肪厚、皮下脂肪厚ともに厚めでした。

<宮富藤>

父は奥茂(宮城県加美郡)、母の父は糸藤(岡山)、母の母の父は茂重波(兵庫)で生産地は迫町(富士原市郎さん生産)です。

間接検定の成績ではDGが0.90kg、枝肉重量333kg、バラの厚さが6.2cmで、ともに県平均より高かったのですが全国平均にはおよびませんでした。BMSは2.1で今回の検定で最低のものとなりました。

<糸昭>

父は第2波茂で(宮城県遠田郡)、母の父は奥茂、母の母の父は糸光(島根)で生産地は桃生町(及川昭さん生産)です。

間接検定の成績ではDGが0.96kg、枝肉重量が347kgで今回の検定で最高のものでした。皮下脂肪厚1.8cm、筋間脂肪厚4.3cmと薄かったのですが、バラの厚さは今回の検定で一番劣っており5.9cmでした。また、BMSは2.5で、全国、県の平均値よりも劣っていました。

この4頭の候補種雄牛については、今回の間接検定成績および現在実施中のフィールド検定成績に基づき、宮城県肉牛改良委員会において検討される。その結果によって本県種雄牛として適当と認められた場合は、基幹種雄牛として選抜されることになります。(酪農肉牛部 西田茂)

表-1 和牛産肉能力直接検定成績

検定種雄牛名号	生年月日	生産地	父牛	母方父牛	母方祖父牛	1日平均増体量(kg/day)	365日補正体重(kg)	TDN要求率	粗飼料摂取率(%)
奥北茂	H8.8.14	米山町	奥茂	糸光	第7系桜	1.2	430	4.47	32
宮奥花	H8.12.8	迫町	奥茂	糸花	第7系桜	1.4	470	4.03	31
宮富藤	H9.5.1	迫町	奥茂	糸藤	茂重波	1.2	421	3.72	35
糸昭	H9.1.27	桃生町	第2波茂	奥茂	糸光	1.5	469	3.45	33

表-2 和牛産肉能力間接検定

検定種雄牛名号	供試息牛頭数	1日平均増体量(kg/day)	枝肉重量(kg)	枝肉歩留(%)	ロース芯面積(cm ²)	バラの厚さ(cm)	皮下脂肪厚(cm)	筋間脂肪厚(cm)	脂肪交雑基準値(全和登)	歩留基準値(%)	枝肉等級		
奥北茂	10	0.88	323	55.6	44	6	2.3	4.3	3.3	73.0	A5-6	A4-2	B5-1
宮奥花	8	0.94	332	56.0	45	6.4	2.8	5.7	3.2	72.9	A5-5	A4-2	B5-1
宮富藤	10	0.90	333	58.0	46	6.2	2.2	4.6	2.1	73.4	A5-3	A4-4	A3-3
糸昭	9	0.96	347	57.8	45	5.9	1.8	4.3	2.5	73.3	A5-6	A4-2	B5-1
宮城県(第7～18回)		0.83	320	57.3	48	5.7	1.7	5.1	2.6	73.9			
全国 平成11年度		0.92	354	61.2	48	6.3	2.0	5.6	2.6	73.6			

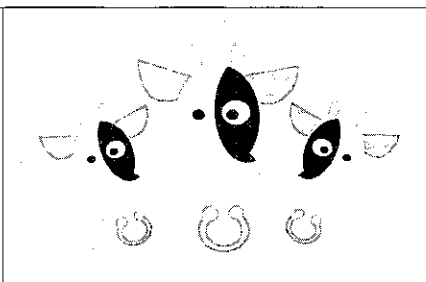


株式会社 五十嵐商会
 仙台市若林区卸町五丁目1番地4
 電話(022)236-2525(代表)

畜産振興の明日を担う地方競馬



地方競馬全国協会



豊里町有機肥料センターの紹介

有機肥料センターを核に地域資源循環型農業を構築

豊里町役場 産業振興課

1 事業の目的

豊里町においては、町の基幹産業である農業の振興と経営の安定を図り、複合経営の一翼を担う畜産からの公害を防止し、家畜排せつ物を適正に処理する活性化施設として有機肥料センターを建設しました。

また、生産された有機肥料は転作田を有効利用するために固定団地として集積された転作作物を中心に施肥をし、地力の改良・増強を図り、畜産農家、耕種農家をはじめ、一般家庭をも含めた地域資源循環型システムを構築することを目的としています。

2 施設の設置及び管理運営

【施設の設置主体】 豊里町

【管理運営】 みやぎ登米農業協同組合

3 原料及び処理方式・脱臭方式

【原料】

(原料)	(年間処理量)	(日量処理量)
①乳牛糞	3,379 t	11.264 t (水分75%)
②肉牛糞	2,178 t	7.260 t (水分70%)
③豚糞	330 t	1.101 t (水分75%)
小計	5,887 t	19.625 t (水分73%)
④もみ殻	90 t	0.300 t (水分15%)
⑤返送材	1,200 t	4.000 t (水分40%)
合計	7,177 t	23.925 t (水分66%)

【処理方式】

- ・一次発酵処理 (発酵槽) スクープ式攪拌機方式 (処理日数16日)
- ・二次発酵処理 (養生槽) ローダー切り返し方式 (処理日数44日)

【脱臭方式】

微生物による脱臭方式

(原料搬入料) 300円 (1 t)

(年間稼働日数) 300日

(1日当たりの処理量) 23.925 t

(肥料の製造量) 6.308 t (年間1,892 tを製造し、バラ売り85%、袋詰15%の割合で販売)

4 肥料販売及び成分

製造した肥料は「有機なる大地1号」という製品名で、みやぎ登米農業組合において販売しています。価格は、バラ売りが3,500円/1 t (自己運搬)、袋詰めが320円 (12kg入) となっています。

「有機なる大地1号」の成分 (乾物当たり)

区分	窒素	リン酸	カリウム	炭素率
成分値 (%)	2.2	2.9	2.8	9.1

5 今後の取り組み

有機肥料センターは平成13年4月16日から稼働しましたので、今年の4月で1年が経過します。

稼働して間もないころは原料水分の関係などで発酵がうまくいかず、関係者の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、畜産農家 (有機肥料センター利用組合員) の方々のご理解と迫家畜保健衛生所をはじめとする関係団体の皆様のご協力により、現在では機械もほぼ順調に動いています。

また、製品につきましても当初の目的どおりに集積固定化された転作田を中心に散布する予定であり、袋詰めにつきましても今年4月から本格的に販売します。

今後は、より多くの皆さんに長く使っていただけるように、迫地域農業改良普及センターの協力により適正な施肥利用についてのマニュアルづくりを進めていきたいと思っております。

さらに、より多くの畜産農家に有機肥料センターを利用していただけるよう、各課題を整理・解決しつつ、本施設が地域資源循環型システムを構築するための核となるよう取り組んでいきたいと考えております。



(堆肥センターの全景)



(袋詰め有機なる大地1号)

【連絡先】

豊里町有機肥料センター
〒987-0300

宮城県登米郡豊里町
三番江28番地

TEL (0225) 76-6011

(FAX兼用)

(主査 本間利政)

〈衛生便り〉

ニューカッスル病の発生

仙台家畜保健衛生所

ニューカッスル病 (ND) ウイルスは、パラミクソウイルス科に属し、鶏や野鳥を含めた多くの鳥類に感染します。このウイルスは成鶏を100%死亡させるほど強いものから、ヒナの脳内に直接接種しても何の異常も認められないような弱いものまで、多くの株があり、鶏における症状も、腸管の出血を特徴とする高致死率のアジア型、呼吸器と神経系に病変が強いアメリカ型、中等毒型、弱毒型、無症状腸管型など様々な型があります。

本年2月に宮城県内のブロイラー鶏群にNDが発生しました。当該農場は、使用説明書に基づき生ワクチンを飲水投与していました。当該農場の3鶏群にNDウイルスの動きが見られ、発生鶏群では突然沈うつ、斜頸などの神経症状などを呈して死亡する鶏が増加し、発生後半には緑色下痢便や呼吸機症状を呈した個体も認められ、発生鶏群では5~10%弱の死亡率に達しました。

NDワクチンには、不活化と生があり、それぞれに長所と短所があります。不活化ワクチンは高い抗体価を得ることができますが、注射局所に強い反応と長期間の残留を起こしてしまいます。生ワクチンは飲水、点眼、噴霧などの方法があり、組み合わせて利用されています。

NDの感染を防御するためには、HI試験で16~20倍の抗体価が必要といわれていますが、種鶏における移行抗体が高く、長期間持続することにより、ワクチン投与は行っているのに十分な効果を得られない可能性が考えられます。家畜保健衛生所などで実施している抗体ワクチン投与方法を再検討する必要性もあると考えられます。また、愛玩鶏や少数養鶏についてもワクチン接種による防御が重要と思われます。

NDを疑う症状が発生した場合、すぐにかかりつけの獣医師、もしくは最寄りの家畜保健衛生所まで御相談ください。

(病性鑑定班 小寺 文)

実践大学校生の抱負

全国農業大学校プロジェクト発表会に参加して

宮城県農業実践大学校畜産学部
2年 門脇 優

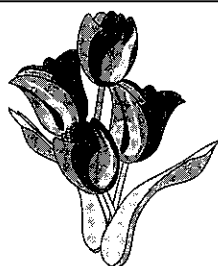


2月の21、22日と東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで全国農業大学校プロジェクト発表会が開催されました。宮城県からの発表は残念ながらなかったものの、1年生から全員で5名参加してきました。

1日目は、開会式や主催者等の挨拶が行われました。引き続き「私が志向した農業と起業の15年“らしくない”がおもしろい」と題した石川県の長田氏による記念講演を聴くことができました。内容は、大学校を出てから今に至るまでどのような経営をしてきたかで、金持ちにはどうやったらなれるか、夢をどうやったら実現できるかなど経営の楽しさを語る非常に興味をひかれる講演でした。この後夕食の際、全体での交歓会が行われ全国各地の大学校生と自分で作った名刺を交換し楽しい一時を過ごしました。

2日目は、全国より選ばれた15名のプロジェクト発表です。発表の内容は様々で、畜産の分野では私の専攻する養豚を取り扱った課題はありませんでしたが、どの発表も非常に良く整理されており、聴く側にとってもとても理解しやすいものでした。中には聴いても難しいものもありましたが、自分がやったプロジェクトに対する熱意と気迫がひしひしと伝わってきました。

最後に、私は、我が家の経営をする際に経営にプラスになるようなプロジェクトをしたいと思いますが、今回の全国プロジェクト発表会で発表されたもののように頑張って整理し、来年は自分があの場に立って発表できるように頑張りたいと思います。



● KOMATSU

カンタン操作で、
飼料も堆肥もラクラク作業



コマツ宮城株式会社

仙台市宮城野区扇町二丁目1の30
電話(022)(237)7441番(代)

●効能…粗飼料の食い込み、消化吸収促進
悪臭防止、優良堆肥作り
創業38年の販売実績を誇る安全、天然野生酵母



株式会社 セイフ 東北営業所
〒984-0015 仙台市若林区卸町5丁目1-8
TEL: 022-782-7511
FAX: 022-284-5360

〈人の動き〉

宮城県

退職 (3月31日付け)	産業経済部技術副参事 (団体指導担当)	佐藤 康徳
"	畜産試験場種豚家きん部長	伊藤 次郎
"	畜産試験場総括研究員	鈴木 啓一
"	畜産試験場技師 (試験検査補助主任)	伊藤 せつ子
"	農業実践大学校長	大野 興一
"	農業実践大学校技術副参事兼畜産学部長	佐藤 武夫
"	築館地域農業改良普及センター所長兼築館産業振興事務所農業普及部長	佐々木 英夫

平成14年4月1日付け

新	旧	氏名
産業経済部技術副参事 (農業環境政策担当)	畜産試験場長	高橋 喬一
産業経済部畜産課技術副参事兼技術補佐 (総括担当)	大河原産業振興事務所農業振興部技術副参事兼次長 (総括担当兼班長) 兼企画総務部企画員	小野寺千一
産業経済部畜産課BSE対策専門監	仙台家畜保健衛生所技術副参事兼次長 (総括担当) 兼仙台産業振興事務所	黒須 敏夫
産業経済部畜産課主任主査	石巻港湾事務所主任主査	斎 澄夫
産業経済部畜産課技術補佐 (班長)	本吉地域農業改良普及センター技術主幹 (班長) 兼気仙沼地方振興センター兼病害虫防除所	佐藤 章
産業経済部畜産課技術主査	亶理地域農業改良普及センター技術主査兼仙台産業振興事務所	安達 裕美
産業経済部畜産課主任主査	大河原家畜保健衛生所衛生所主任主査兼大河原産業振興事務所	大久 範幸
産業経済部産業技術振興課主任主査	産業経済部農業振興課専門技術員 (畜産担当) 兼産業技術振興課	日野 義彦
産業経済部農業振興課専門技術員 (畜産担当) 兼産業技術振興課	小牛田地域農業改良普及センター主任主査兼古川産業振興事務所	曾根 文浩
大河原家畜保健衛生所技術主幹 (班長) 兼大河原産業振興事務所	古川家畜保健衛生所技術主幹 (班長) 兼古川産業振興事務所企画総務部企画員	沼辺 孝
大河原家畜保健衛生所技術主幹 (班長) 兼大河原産業振興事務所企画総務部企画員	迫家畜保健衛生所技術主幹 (班長) 兼迫産業振興事務所企画総務部企画員	織江 貞二
大河原家畜保健衛生所兼大河原産業振興事務所	仙南食肉衛生検査所	松原 友美
大河原家畜保健衛生所技術主査兼大河原産業振興事務所	畜産試験場研究員	菊地 武
仙台家畜保健衛生所兼仙台産業振興事務所畜産振興部長	築館産業振興事務所畜産振興部長兼迫家畜保健衛生所次長	佐々木和夫
仙台家畜保健衛生所技術副参事兼次長 (総括担当) 兼仙台産業振興事務所	迫家畜保健衛生所次長 (総括担当) 兼迫産業振興事務所	大久 昇悦
仙台家畜保健衛生所技術主幹 (班長) 兼仙台産業振興事務所	石巻産業振興事務所畜産振興部技術主幹 (班長) 兼企画総務部企画員兼仙台家畜保健衛生所	高橋 健
仙台家畜保健衛生所兼仙台産業振興事務所	畜産試験場	及川 俊徳
仙台家畜保健衛生所兼仙台産業振興事務所	古川家畜保健衛生所兼古川産業振興事務所	網代 隆
古川家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼古川産業振興事務所	大河原家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼大河原産業振興事務所	谷津 直子
古川家畜保健衛生所主任主査兼古川産業振興事務所	産業経済部畜産課主任主査	天野 祐敏
古川家畜保健衛生所技術主査兼古川産業振興事務所	産業経済部畜産課技術主査	高橋 伸和
築館産業振興事務所畜産振興部長兼迫家畜保健衛生所次長	産業経済部畜産課技術副参事兼技術補佐 (総括担当)	峯岸 こう
築館産業振興事務所畜産振興部技術主幹 (班長) 兼企画総務部企画員兼迫家畜保健衛生所	畜産試験場主任研究員	小堤 知行
築館産業振興事務所兼迫家畜保健衛生所	迫家畜保健衛生所兼迫産業振興事務所	真鍋 智
迫家畜保健衛生所次長 (総括担当) 兼迫産業振興事務所兼仙台家畜保健衛生所	築館産業振興事務所畜産振興部技術次長 (班長) 兼企画総務部企画員兼迫家畜保健衛生所	佐藤 尚
迫家畜保健衛生所主任主査 (班長) 兼迫産業振興事務所	仙台家畜保健衛生所主任主査 (班長) 兼仙台産業振興事務所	加藤 伸悦
迫家畜保健衛生所技術主査兼迫産業振興事務所	古川家畜保健衛生所技術主査兼古川産業振興事務所	阿部 忠宏
迫家畜保健衛生所兼迫産業振興事務所	新規採用	西形 葉子
石巻産業振興事務所主任主査 (班長) 兼企画総務部企画員兼仙台家畜保健衛生所	築館産業振興事務所主任主査兼迫家畜保健衛生所	大場 実
畜産試験場長兼種豚家きん部長	仙台家畜保健衛生所兼仙台産業振興事務所畜産振興部長	松本 忠
畜産試験場上席主任研究員	大河原家畜保健衛生所技術主幹 (班長) 兼大河原産業振興事務所企画総務部企画員	木船 厚恭
畜産試験場主任研究員	産業経済部産業技術振興課技術主幹	鹿野 裕志
畜産試験場副主任研究員	環境生活部環境生活総務課主任主査	伊藤 敦
畜産試験場主幹	企画部統計課主幹	板垣 文男
畜産試験場	産業経済部農業振興課	千葉 和義
畜産試験場主査	迫地方果事務所主査	遠藤 善範
畜産試験場研究員	仙台家畜保健衛生所技術主査兼仙台産業事務所	早坂 駿哉
畜産試験場	新規採用	佐藤 元道
石巻産業振興事務所農業振興部次長 (総括担当)	産業経済部畜産課技術補佐 (班長)	高橋 利夫
産業経済部農業振興課技術主査	大河原家畜保健衛生所技術主査兼大河原産業振興事務所	安達 芳則
小牛田地域農業改良普及センター主任主査兼古川産業振興事務所	畜産試験場副主任研究員	鈴木 雄
本吉地域農業改良普及センター技術主査兼気仙沼地方振興センター	迫家畜保健衛生所技術主査兼迫産業振興事務所	大沼 篤
農業実践大学校畜産学部長	気仙沼地方振興センター農林部技術次長 (班長) 兼企画員	清和田久義
保健福祉部社会福祉課長補佐 (班長)	産業経済部畜産課長補佐	齋藤 文昭
大崎地方ダム総合事務所主任主査	畜産試験場主任主査	畠山 眞
仙台中央県税事務所	畜産試験場	川端 史世

全農宮城県本部

退職（3月31日付け） 管理部付
 " 家畜市場課
 " 管理部付
 " 家畜市場課
 " 畜産課
 " 県北プロパンガスセンター

伊藤 典安
 千葉 勝也
 堀内 政昭
 赤坂 隆一
 相沢 みや子
 斎藤 哲郎

平成14年4月1日付け

新	旧	氏名
管理部付 （株）宮城県食肉流通公社出向 畜産課 仙台食肉事務所長 家畜市場課 管理部付北日本くみあい飼料（株）出向 家畜市場課 家畜市場課 畜産課 家畜市場課 家畜市場課兼（株）宮城県畜産協会仙北事業所駐在 家畜市場課 家畜市場課兼（株）宮城県畜産協会仙南事業所駐在 農業機械課	JAいしのまき駐在チーフ 仙台食肉事務所長 管理部付（株）宮城県畜産協会出向 管理部付（株）宮城県畜産協会出向 管理部付（株）宮城県畜産協会出向 管理部付（株）宮城県畜産協会出向 管理部付（株）宮城県畜産協会出向 総務課 管理部付（株）宮城県畜産協会出向 畜産課 管理部付（株）宮城県畜産協会出向 管理部付（株）宮城県畜産協会出向 管理部付（株）宮城県畜産協会出向	鈴木 清一 那須 正晃 保科善一郎 吉岡耕三郎 太宰 仁 菅原 金一 金田 俊一 荒川まゆみ 三浦 光也 石垣 史弘 千葉 勝彦 畑山 和夫 佐々木重善

(社) 宮城県農業公社

平成14年4月1日付け

新	旧	氏名
事業局長 事業局畜産振興班副参事（牧場管理担当） 畜産振興班副参事兼畜産振興班長 畜産振興班主幹兼畜産振興班副班長 畜産振興班上席主任主査（宮農短大農場業務担当） 畜産振興班上席主任主査 畜産振興班主任主査 畜産振興班技術主査 設計管理班技術主査兼事業所 白石牧場主幹 白石牧場技術主査 機械班技術主査兼白石牧場（白石牧場勤務） 岩出山牧場主任主査（大郷全農ETセンター業務担当） 岩出山牧場主任主査 岩出山牧場主任主査 岩出山牧場主任主査 岩出山牧場主査兼事業所 （命）宮城県仙台家畜保健衛生所解剖施設等（大郷町・仙台市）業務担当 事業局農地管理班主査	畜産部長 畜産部次長（牧場管理担当） 畜産部次長兼畜産振興課長 畜産部基地建設課長 畜産部畜産振興課長補佐（宮農短大農場業務担当） 畜産部畜産振興課長補佐 畜産部基地建設課技術主査 設計センター設計課技師 畜産部畜産振興課技師 総務部総務班主幹 農地管理部管理課技術主査 事業所機械課技術主査 岩出山牧場技術主査（大郷全農ETセンター業務担当） 岩出山牧場技術主査 白石牧場技術主査 総務部総務班主査 岩出山牧場主任主査 岩出山牧場主査兼管理課（事業所勤務）	菅原 敏夫 佐々木英一 佐藤 富雄 鈴木 利明 佐竹 進 岡本 俊彦 平田 利幸 高橋 淳 上生 良樹 阿部 勝利 遠藤 康彦 高子 喜一 門脇 秀二 庄司 功 高橋 秀 阿部 浩子 高橋 久男 熊谷 浩子

(社) 宮城県畜産協会

退職（3月31日付け） 専務理事
 " 価格安定課長
 " 経営支援課

粕谷 光
 石川 三男
 大槻 文磨

平成14年4月1日付け

新	旧	氏名
価格安定課長 価格安定課 家畜改良課長 家畜改良課 家畜改良課 経営支援課 経営支援課 生乳検査課 総務課	宮城県畜産試験場 種豚家きん部長 経営支援課 仙北事業所長 仙北事業所 中央事業所 生乳検査課 新規採用 価格安定課 家畜衛生課	伊藤 次郎 石川 正志 安住 英一 伊藤 信行 佐藤 潤 大宮 勝廣 畑中 大輔 伊藤 武彦 三品 清美

経営診断受診希望農家の申込み受付中!

宮城県畜産協会

宮城県畜産協会では、地域畜産総合支援体制整備事業（県委託事業）において、畜産をめぐる情勢の変化に対応し、経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営体を広範かつ急速に支援育成していくため、下記の内容にて経営診断指導事業を実施しております。

なお、詳細については本会経営支援課または各事業所に直接お問い合わせいただくか、最寄りの家畜保健衛生所・畜産振興部、地域農業改良普及センターにお尋ね下さい。

I 個別指導

(1) 経営診断に基づく改善指導

経営診断分析により問題点を把握するとともに、問題点の改善のための指導を行う。

(2) 経営管理・生産技術指導

畜産経営体自らの記録・記帳による生産・財務状況の分析、把握及び改善を図るため生産技術水準及び生産性等の分析手法、損益計算書、貸借対照表の作成・分析手法等、更には特定の生産技術の改善、新技術の導入・定着等生産技術の高度化を図るため定期的な指導を行う。

(3) フォローアップ指導

畜産経営体に対する各種の助言・指導内容の定着を図るため、定期的な巡回相談指導を行う。

II 畜種及び飼養規模

- (1) 酪 農：概ね 20頭以上
- (2) 肉用牛繁殖：概ね 10頭以上
- (3) 肉用牛肥育：概ね 20頭以上
- (4) 養豚一貫：母豚概ね20頭以上

〈お問い合わせ先〉

宮城県畜産協会	経営支援課	022-723-0733
"	仙北事業所	0220-58-5220
"	中央事業所	0229-34-3304
"	仙南事業所	0224-52-2523

(経営支援課)

宮城県動物薬品器材協会

(会員名)

(株) 美濃谷
 仙台市太白区羽黒台31-14 TEL022-245-4306

(株) タツク
 仙台市青葉区上杉3-3-8 TEL022-225-7330

小田島商事(株)
 古川市清水字周防10-1 TEL0229-26-4567

東新薬業(株)
 古川市古川字上古川屋敷9-1 TEL0229-24-3211

(株)アグロジャパン宮城営業所
 仙台市若林区卸町東1-8-20 TEL022-232-9755

事務所移転のご案内

移転日 (業務開始)

家畜改良課：平成14年4月1日 (月)

総務課・家畜衛生課・経営支援課・価格安定課

平成14年4月15日 (月)

新住所 (本 所)

〒980-0011 仙台市青葉区上杉1丁目16番3号

JAビル別館3F

URL : <http://miyagi.lin.go.jp>

E-mail : mygchiku@mwnet.or.jp



◆総務課

TEL : 022-723-0731 FAX : 022-711-5322

◆家畜衛生課

TEL : 022-723-0732 FAX : 022-723-1885

◆経営支援課

TEL : 022-723-0733 FAX : 022-723-1885

◆価格安定課

TEL : 022-723-0734 FAX : 022-711-5322

◆家畜改良課

TEL : 022-264-8389 FAX : 022-221-6542

◆生乳検査課

TEL : 022-257-0006 FAX : 022-298-9750

◆仙南事業所

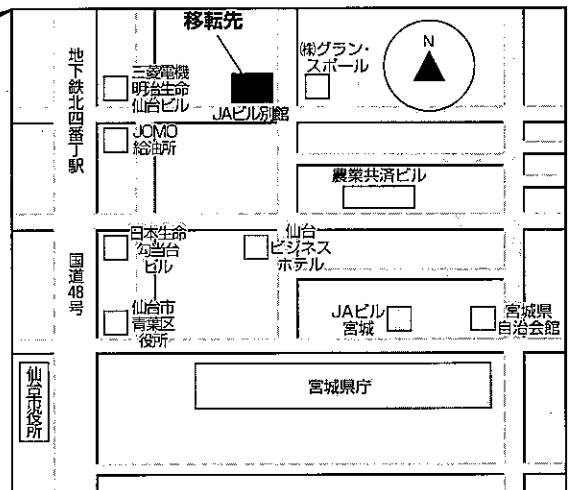
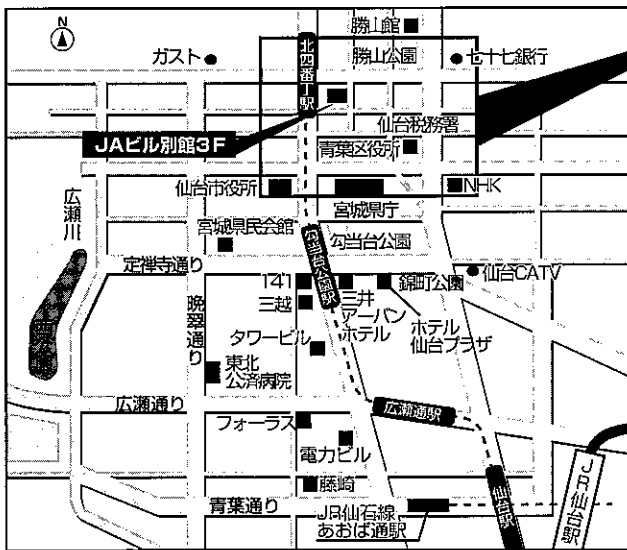
TEL : 0224-52-2523 FAX : 0224-51-1103

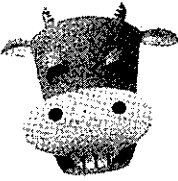
◆中央事業所

TEL : 0229-34-3304 FAX : 0229-35-1157


◆仙北事業所

TEL : 0220-58-5220 FAX : 0220-58-5221





肉の日



毎月29日は肉の日です

宮城県食肉消費対策協議会

〒981-1224 名取市増田字柳田379-1 (社団法人・宮城県畜産協会内)

電話 022-382-8133

お肉は、私たちの体の血となり
肉となる、たいせつなタンパク源。
ビタミン、ミネラルも豊富な、
たいへん優れた食品です。